

平成 30 年度事業報告

■公益目的事業 1（「創造する伝統賞」の主催）

（定款第 4 条第 1 項第 2 項）

◆助成顕彰事業（第 25 回）

平成 30 年度助成顕彰事業として「創造する伝統賞」募集を行い、平成 30 年 9 月 8 日に選考委員会を開催。平成 30 年 9 月 20 日の理事会の審議を経て 3 名に授与した。

「第 10 回創造する伝統賞」 賞金各 100 万円

- 久住有生（くすみなおき） 46 歳 左官
- 森本愛子（もりもとあいこ） 29 歳 美術家
- 安野太郎（やすのたろう） 39 歳 作曲家

1. 対象

日本の伝統文化及び現代芸術の広い分野を対象とする。国籍不問。

2. 募集応募概況

発 送 先：美術館・博物館・新聞社・雑誌・大学・財団役員他関係者・文化藝術の会会員
歴代助成顕彰関係者・歴代奨学生・評論家・画廊・資料請求者

発 送 数：1,289 通

告 知：当財団 WEB サイト（ホームページ、facebook、twitter）、会報、邦楽ジャーナル、美術の窓ほか

応募総数：49 件（一般公募 36 件、推薦応募 13 件）

3. 選考委員会

開催日時：平成 30 年 9 月 8 日 14：00～15：30

開催場所：公益財団法人日本文化藝術財団 会議室

出席者：金子賢治委員長、倉方俊輔委員、原田大三郎委員、
茂手木潔子委員、山下裕二委員

書面出席：尼崎博正委員、古山正雄委員

役員：北村誠副理事長（オブザーバー）

事務局：事務局員 2 名

選考方法：事前に選考委員に全応募者の資料を送付し、閲覧を依頼。選考委員会当日、事前審査による候補者を各委員が発表し、応募者から提出された DVD、CD、ポートフォリオ等を視聴及び回覧した。票数の多く集まった応募者から審議し、2 名の授賞候補者を選出した。票数の少なかった応募者で、特に注目する候補者について各委員が意見を述べ、資料を閲覧した上で再審議し、満場一致で授賞候補者 1 名を選出した。

4. 理事会の決議

平成 30 年 9 月 20 日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された 3 名への「創造する伝統賞」授与を決議した。

5. 授与式典の開催

開催日時：平成 31 年 2 月 1 日（金） 16：00～19：30

開催場所：明治記念館（曙の間）

出席者：[授 賞 者] 久住有生、森本愛子、安野太郎

- [助成顕彰選考委員] 金子賢治委員長、倉方俊輔委員、原田大三郎委員、古山正雄委員、茂手木潔子委員、山下裕二委員
- [奨学金選考委員] 寺脇研委員長、木村博昭委員、近藤健一委員、椿昇委員、成田宏紀委員、原高史委員
- [専門委員] 葛西聖司委員、菅野由弘委員、中村真規委員、花光潤子委員、横内謙介委員
- [25周年記念助成選考委員] 杉浦幸子委員、野口和男委員、ヤノベケンジ委員
- [役員] 徳山豊理事長、北村誠副理事長、大野木啓人常務理事、竹内昌義理事、橋市郎理事、津田恵子理事、室瀬和美理事、吉木稔朗理事、吉村七重理事、根岸吉太郎評議員、野呂芙美子評議員、渋谷佳樹監事、志村文衛監事
- [来賓] 文化庁 内藤敏也審議官、坪田知広参事官

内容：理事長挨拶、来賓御祝辞、創造する伝統賞選考評、賞状・賞金目録の授与、日本文化藝術奨学金選考評、奨学金証書・目録の授与、25周年記念助成事業報告、奨学生活動紹介、授賞者活動紹介、祝宴、授賞者活動展示、奨学生活動展示、25周年記念助成パネル展示

6. 賞金の授与

平成31年2月 本人名義の口座に振込にて授与

7. 授賞者の紹介

当財団WEBサイト

授賞者紹介の小冊子を作成し授賞式で配付、その他関係者へ送付

■公益目的事業2（芸術系大学等に在学する学生及びその他の学生に対する奨学金の給付）

（定款 第4条 第3項）

◆育英事業

（1）日本文化藝術奨学金

平成30年度育英事業として「日本文化藝術奨学金」の募集を行い、平成30年9月6日に選考委員会を開催。平成30年9月20日の理事会の審議を経て、6名を奨学生として決定した。

日本文化藝術奨学金 各50万円

- 島袋香子 沖縄県立芸術大学大学院 造形芸術研究科 生活造形専攻 工芸専修
修士課程1年（22歳）
- 石黒健一 京都造形芸術大学大学院 芸術研究科 芸術専攻
修士課程1年（22歳）
- 小林颯 東京芸術大学大学院 映像研究科 メディア映像専攻
修士課程1年（22歳）
- 秋良美有 東京芸術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻
修士課程1年（23歳）
- 重松優志 東京芸術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻

- 博士課程 2 年 (32 歳)
○ 坂部真理 京都造形芸術大学大学院 (通信) 芸術研究科 芸術環境専攻
修士課程 1 年 (30 歳)

1. 対象者

次の条件を充たし、文化・芸術の分野で将来にわたり活動が期待され、才能・可能性が認められる者

- (1) 国内の芸術系大学の大学院に就学しており、かつ次年度在籍予定者であること
- (2) 学業成績、生活態度共に優秀で、健康な学生であること

※ 対象の大学は、国内の芸術系の大学・大学院で実技部門を設けている大学とする。
ただし別途定める指定校は対象とする。

2. 募集応募概況

募 集：大学院生 6 名 奨学金 1 年間 50 万円の給付

募集期間：平成 30 年 6 月 1 日から平成 30 年 6 月 11 日 (当日消印有効)

申請書類：①奨学生願書 ②推薦書 ③成績証明書 ④在学証明書

応募状況：55 名 (うち選考対象外 2 名)

- ・ 前年と比べ、応募総数が増加した。(−19 件)
- ・ 特に東京藝術大学からの応募者が増加し、応募総数の約 45%に達した。
(+11 件)
- ・ 次いで京都造形芸術大学からの応募者が増加した。(+5 件)

3. 選考委員会

開催日時：平成 29 年 9 月 6 日 (木) 15:00~16:30

開催場所：公益財団法人日本文化芸術財団 会議室

出席者：寺脇研委員長、近藤健一委員、椿昇委員、成田宏紀委員、原高史委員

書面出席：木村博昭委員

役員：北村誠副理事長 (オブザーバー)

事務局：事務局員 2 名

○選考資料

- ・ 日本文化芸術奨学金 学校別応募人数
- ・ 日本文化芸術奨学金 学校別過去の受給者数
- ・ 日本文化芸術奨学金 受給者詳細リスト ※事前送付
- ・ 応募者資料 (応募書類一式) ※事前送付
- ・ 応募者資料 (ポートフォリオ等参考資料)

○選考方法

- ・ 事前に選考委員に全応募者の資料を送付し、閲覧を依頼。
- ・ 選考委員会当日、会議開始前にそれぞれポートフォリオを閲覧し、候補者を選出。
- ・ 事前審査による候補者を各委員が発表し、応募者から提出されたポートフォリオ、DVD 等参考資料を視聴・回覧した。
- ・ 同大学からの複数受給を避けるため票数の多く集まった東京藝術大学から候補者を 2 名選出した。
- ・ 東京藝大以外で票数の多い候補者について審議し、1 名を選出した。
- ・ その他票数が割れた候補者および票は入れなかったが特に注目する候補者について、各委員が意見を述べた上で、再審議し、2 名を選出した。
- ・ 最後に選出した 2 名のうち 1 名が東京藝術大学であり、同大学から 3 名の奨学生が

選出されることになるが、以下事由によりやむを得ない結果として、理事会に要請することを確認した。

- a. 同大学の大学院在籍中であるが、それぞれ学部は別の大学で学ぶ、社会人経験があるなど、経歴が多様である。
- b. 他の応募者と比較しても、活動が非常に優れており、かつこれからの日本の文化・芸術にとって重要な役割を担うと考えられる。

4. 理事会の決議

平成 30 年 9 月 20 日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された 6 名に奨学金授与を決議した。

5. 授与式典の開催

開催日時：平成 31 年 2 月 1 日（金） 16：00～19：30

開催場所：明治記念館（曙の間）

出席者：[奨学生] 島袋香子、石黒健一、小林颯、島袋香子、秋良美有、重松優志、坂部真理

[助成顕彰選考委員] 金子賢治委員長、倉方俊輔委員、原田大三郎委員、古山正雄委員、茂手木潔子委員、山下裕二委員

[奨学金選考委員] 寺脇研委員長、木村博昭委員、近藤健一委員、椿昇委員、成田宏紀委員、原高史委員

[専門委員] 葛西聖司委員、菅野由弘委員、中村真規委員、花光潤子委員、横内謙介委員

[25 周年記念助成選考委員] 杉浦幸子委員、野口和男委員、ヤノベケンジ委員

[役員] 徳山豊理事長、北村誠副理事長、大野木啓人常務理事、竹内昌義理事、橋市郎理事、津田恵子理事、室瀬和美理事、吉木稔朗理事、吉村七重理事、根岸吉太郎評議員、野呂芙美子評議員、渋谷佳樹監事、志村文衛監事

[来賓] 文化庁 内藤敏也審議官、坪田知広参事官

内容：理事長挨拶、来賓御祝辞、創造する伝統賞選考評、賞状・賞金目録の授与、日本文化芸術奨学金選考評、奨学金証書・目録の授与、25 周年記念助成事業報告、奨学生活動紹介、授賞者活動紹介、祝宴、授賞者活動展示、奨学生活動展示、25 周年記念助成パネル展示

6. 奨学金給付

平成 31 年 2 月 前期分として給付金の半額を本人名義口座に振込にて給付

平成 31 年 7 月 後期分として給付金の残金を本人名義口座に振込にて給付

(2) 加藤定奨学金

平成 30 年度育英事業として「加藤定奨学金」の募集を行い、平成 30 年 9 月 6 日に選考委員会を開催。平成 30 年 9 月 20 日の理事会の審議を経て、7 名を奨学生として決定した。

▶ 京都・奨学金給付大学生 3 名

- 谷脇奈那美 京都精華大学 デザイン学部 イラスト学科 イラストコース
3 年 (20 歳)

- 藤谷綾音 京都造形芸術大学 芸術学部 情報デザイン学科 イラストレーションコース
3年 (20歳)
- 寺本遥 京都市立芸術大学 美術学部 美術科 構想設計専攻
3年 (20歳)

▶ 全国・奨学金給付大学生 4名

- 二木沙和 女子美術大学 芸術学部 美術学科 洋画専攻
2年 (19歳)
- 清水隆子 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻
3年 (36歳)
- 服部真歩 名古屋芸術大学 芸術学部 美術学科 美術領域
2年 (19歳)
- 松村歩 多摩芸術大学 美術学部 彫刻学科
3年 (21歳)

1. 対象者

次の条件を充たす者

- (1) 国内の芸術系大学の2年生及び3年生に就学し、かつ次年度在籍予定者であること
- (2) 学業優秀、品行方正でありながら経済的事由によって就学に支障をきたしている学生であること

※ 対象の大学は、国内の芸術系の大学・大学院で実技部門を設けている大学とする。

2. 募集応募概況

募 集： 大学生7名 奨学金 1年間30万円の給付

募集期間： 平成30年6月1日から平成30年6月11日（当日消印有効）

申請書類： ①奨学生願書 ②推薦書 ④成績証明書 ⑤在学証明書 ⑥所得証明書類

応募状況： 応募総数15名（全国12名、京都4名）

・ 昨年に比べ、応募総数の変動はないが、全国が増加、京都は減少した。
（全国+3、京都-2、総合±0）

3. 選考委員会

開催日時： 平成29年9月6日（木） 15:00～16:30

開催場所： 公益財団法人日本文化芸術財団 会議室

出席者： 寺脇研委員長、近藤健一委員、椿昇委員、成田宏紀委員、原高史委員

書面出席： 木村博昭委員

役員： 北村誠副理事長（オブザーバー）

事務局： 事務局員2名

○選考資料

- ・ 加藤定奨学金 学校別応募人数・受給者数
- ・ 応募者資料（応募書類一式） ※事前送付
- ・ 困窮度順リスト ※事前送付

○選考方法

- ・ 事前に選考委員に全応募者の資料（提出された所得証明書や応募書類より[認定所得額]（日本学生支援機構奨学金の控除額の算出方法を参考にした計算式で算出したポイント）を算出したものを含む）を送付し、閲覧を依頼。
- ・ 選考委員会当日、困窮度の高い順に出席委員全員で詳細確認をし、意見交換を行った。

【全国】

- ・ 困窮度上位者から順に、ポイントに反映されていない状況等を確認し、満場一致で困窮度の最も高い1名を候補者として選出した。
- ・ 次点以下の応募者について再度応募資料を確認し、奨学金の用途、出願事由、ポイントに反映されていない困窮に関わる状況などから、総合的に判断した。

【京都】

- ・ 困窮度上位者から順に、ポイントに反映されていない状況等を確認し、満場一致で3名を候補者として選出した。

4. 理事会の決議

平成30年9月20日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された7名に奨学金授与を決議した。

5. 奨学金給付

平成30年2月 前期分として給付金の半額を本人名義口座に振込にて給付

平成30年7月 後期分として給付金の残金を本人名義口座に振込にて給付

(3) 25周年記念助成

平成30年度育英事業（周年記念事業）としてこれまでの日本文化芸術奨学金受給者を対象に「25周年記念助成」の募集を行い、平成30年6月12日に選考委員会を開催。平成30年6月21日の理事会の審議を経て、8名を助成対象者として決定した。

25周年記念助成 総額300万円を分配

- 野原邦彦 現代アーティスト／36歳／平成18年度奨学金受給
助成金額：10万円
対象企画：①個展「野原邦彦 今夜は本屋でパーティー」（銀座蔦谷書店 | 東京）
②個展「野原邦彦展」（galleryUG | 東京）
- 奥村雄樹 アーティスト／40歳／平成21年度奨学金受給
助成金額：60万円
対象企画：二人展「心中熊楠城」（kumagusuku | 京都）
- 榊貴美 現代美術家／35歳／平成21年度奨学金受給
助成金額：40万円
対象企画：「紀の国トレイナート」参加
① 駅舎アートプロジェクト「COME AND GO」（JR朝来駅 | 和歌山）
② つむぐプロジェクト「つむぐワークショップ」（JR紀伊田辺駅コンコース | 和歌山）
- 菅亮平 アーティスト／35歳／平成23年度奨学金受給
助成金額：60万円
対象企画：個展「As you see it」（Yamamoto Keiko Rochaix | ロンドン）
- 黒田大祐 美術家／36歳／平成23年度奨学金受給
助成金額：80万円
対象企画：プロジェクト「不在の彫刻史—建畠大夢と留学生たち—」
① 「ハイパーゴースト・スカルプチャー」（Kanzan Gallery | 東京）
② 「不在の彫刻史2」（3331 Arts Chiyoda | 東京）
- 笹川治子 アーティスト／34歳／平成26年度奨学金受給
助成金額：10万円
対象企画：① 「1940'sフジタ・トリビュート」（東京藝術大学陳列館 | 東京）
② 台日交流展「虚構のはずれ」（国立臺北藝術大學關渡美術館 | 台湾）
- 田中望 画家／28歳／平成26年度奨学金受給
助成金額：30万円

- 対象企画：①二人展「土のみち 土のさち」（塩竈市惇美術館企画展示室 | 宮城）
②「アートみやぎ 2019」参加（宮城県美術館 | 宮城）
- 永井天陽 彫刻家 / 26 歳 / 平成 26 年度奨学金受給
助成金額：10 万円
対象企画：個展「永井天陽 名無しのかたち」（武蔵野美術大学 gFAL | 東京）

7. 対象

対象者：これまでに当財団の育英事業「日本文化藝術奨学金」の給付をうけた者

分野：演劇・舞踊・美術・映像・伝統芸能・複合（分野を特定できない芸術活動）

活動内容：対象者の条件を満たす者（以下対象者という）の活動発表を含み、公開をともなう芸術活動

・ 展覧会、各種展示、展示をともなうワークショップ等

・ 活動内容の記録・公開が可能な公演・シンポジウム等

ただし、以下のいずれかに該当すること

a) 対象者が主催、または対象者が所属する団体が主催する活動（個展等）

b) 対象者が参加し作品発表等を行うための費用を負担する芸術活動（芸術祭への出展等）

対象期間：平成 31 年 3 月 31 日までに実施される活動

8. 募集応募概況

募集：総額 300 万円 対象者若干名

募集期間：平成 30 年 5 月 1 日から平成 30 年 5 月 20 日（当日消印有効）

申請書類：出願用紙①基本情報 ②企画意図・内容 ③収支予算 ④活動歴、その他資料

応募状況：16 名

9. 選考委員会

開催日時：平成 30 年 6 月 12 日（火） 18:00～20:00

開催場所：公益財団法人日本文化藝術財団 会議室

出席者：杉浦幸子委員長、成田宏紀委員、野口和男委員、ヤノベケンジ委員

オンライン出席：原高史委員

役員：北村誠副理事長（オブザーバー）

事務局：事務局員 2 名

○選考資料

- ・ 25 周年記念助成 応募者リスト ※事前送付
- ・ 応募者資料（応募書類一式） ※事前 WEB 共有
- ・ 応募者資料（映像資料） ※事前 WEB 共有
- ・ 応募者資料（ポートフォリオ等参考資料）

○選考方法

- ・ 事前に WEB 上で応募資料を公開（選考委員のみ閲覧可）し、閲覧を依頼。
- ・ 前日までに事前審査による候補者 5 名を各委員が提出。
- ・ 会議開始前にそれぞれポートフォリオ等（現物）を閲覧。
- ・ 事前審査による各委員候補者を確認、票数の多く集まった候補者（4 票）2 名について審議し、候補者として選出した。
- ・ 次に票数の多い候補者（3 票）4 名について 1 名ずつ活動内容を確認し、意見交換を行った。
- ・ 次に票数の多い候補者（2 票）2 名について 1 名ずつ活動内容を確認し、意見交換を行った。

- ・ 本助成の目的・意義を確認し、上記6名のうち5名を候補者として選出した。
- ・ 候補者として選出された7名のうち、申請者の助成希望金額を参考に、助成金の配分について審議した。
- ・ 票数の少なかった候補者（1票）5名のうち、候補者として選出した委員が意見を述べ、多数の賛同を得た1名を候補者として選出した。
- ・ 候補者として選出された8名について、再度申請者の助成希望金額を参考に助成金の配分について審議し、理事会に提案する各助成金額を決定した。
- ・ 候補者が助成金を辞退した場合、他への分配等はせず、対象額の支給はしないことを確認した。
- ・ 助成金の支払時期について、対象企画の一般に公開するプレスリリースの提出をもって、申請者本人に支払うことを確認した。

10. 理事会の決議

平成30年6月21日の理事会で審議を経て、選考委員会より選出された8名に奨学金授与を決議した。

11. ロゴマークの作成

目的：周年事業広報活動での使用、助成対象企画の告知媒体への掲載。

12. WEBサイトの公開

日本文化藝術財団ホームページ内に特設ページを開設、各助成対象者の活動をブログ形式で公開。 <http://www.jp-artsfdn.org/anniversary/>

13. 授与式典での報告

開催日時：平成31年2月1日（金） 16:00～19:30

開催場所：明治記念館（曙の間）

出席者：[助成対象者] 野原邦彦、榊貴美、黒田大祐、笹川治子、永井天陽
菅実花（菅亮平代理）

[助成顕彰選考委員] 金子賢治委員長、倉方俊輔委員、原田大三郎委員、
古山正雄委員、茂手木潔子委員、山下裕二委員

[奨学金選考委員] 寺脇研委員長、木村博昭委員、近藤健一委員、椿昇委員、
成田宏紀委員、原高史委員

[専門委員] 葛西聖司委員、菅野由弘委員、中村真規委員、花光潤子委員
横内謙介委員

[25周年記念助成選考委員] 杉浦幸子委員、野口和男委員、ヤノベケンジ委員

[役員] 徳山豊理事長、北村誠副理事長、大野木啓人常務理事、
竹内昌義理事、橋市郎理事、津田恵子理事、室瀬和美理事、
吉木稔朗理事、吉村七重理事、根岸吉太郎評議員、
野呂芙美子評議員、渋谷佳樹監事、志村文衛監事

[来賓] 文化庁 内藤敏也審議官、坪田知広参事官

内容：理事長挨拶、来賓御祝辞、創造する伝統賞選考評、賞状・賞金目録の授与、日本文化藝術奨学金選考評、奨学金証書・目録の授与、25周年記念助成事業報告、奨学生活動紹介、授賞者活動紹介、祝宴、授賞者活動展示、奨学生活動展示、25周年記念助成パネル展示

14. 助成金給付

各助成対象企画の情報公開資料（チラシ・リリース等）を添付した振込依頼書受理後、本人名義の指定口座に振込にて給付

■公益目的事業3（自主企画公演、展示・体験活動・セミナー・映画上映・演奏会等の文化祭の開催、ホームページでの情報発信、及び実施事業の記録）

（定款第4条第4項第5項第6項）

◆文化芸術普及活動事業

（1）創造する伝統 杜の中の文化祭

当財団の基本理念である「創造する伝統」を体現する実技者、研究者（これまでの助成顕彰授賞者）を中心とした催しを開催。杜の自然を感じながら文化・芸術に触れ、参加者それぞれがこの体験を通して、文化・芸術への興味を深め、親しむことを目的とする。

<実施概要>

① 【Cross the Arts and Culture】

日 時 : 平成30年5月5日（木・祝）
会 場 : 京都造形芸術大学外苑キャンパス
協 賛 : アワガミファクトリー、画材ラボ PIGMENT、(株)クサカベ、
(株)中里、(株)名村大成堂、(株)墨運堂、ナカガワ胡粉絵具(株)、
ホルベイン(株)、松田油絵具(株)、マルオカ工業(株)

協 力 : Gallery UG

後 援 : 京都造形芸術大学、東北芸術工科大学

参 加 費 : プログラムごとに設定

来 場 者 数 : のべ 105名

内 容 : さまざまな分野の文化・芸術を体験する企画。第8回創造する伝統賞授賞の青木芳昭氏（美術家・技法材料学）の活動について紹介する場にもなった。他に、過去の日本文化芸術奨学金受給者によるワークショップを開催。

③ 万華鏡をつくろう！

時 間 : 13:00～15:00

場 所 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス

参 加 費 : 一般 1,000円/会員 無料

講 師 : 野原邦彦（彫刻家/平成18年度日本文化奨学金奨学生）

内 容 : 偶然性の高い絵画技法（モダンテクニック）を使って万華鏡を作成。さまざまな技法を体験するとともに、作業をとおして、講師の作品コンセプトへの理解を深める。

参 加 者 数 : 28名

④ 水と芸術～科学でひも解く日本の文化～

時 間 : 15:20～16:50

場 所 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス

参 加 費 : 無料

講 師 : 青木芳昭/第8回創造する伝統賞授賞者

内 容 : 絶滅のききにある素材や道具について、講師の活動

を具体例にあげながら紹介。講師の最新の研究テーマである「水」をキーワードに、日本の食文化と美術を比較し、地域性と美術をわかりやすく解説。

参加者数 : 34名

⑤ 古今画材ミーティング

時間 : 17:00-19:00

場所 : 京都造形芸術大学 外苑キャンパス

参加費 : 一般 1,000 円/会員 無料

コーディネーター : 青木芳昭/第8回創造する伝統賞授賞者

参加企業 : アワガミファクトリー、画材ラボ PIGMENT、(株)クサカベ、(株)中里、(株)名村大成堂、(株)墨運堂、ナカガワ胡粉絵具(株)、ホルベイン(株)、松田油絵具(株)、マルオカ工業(株)

内容 : 画材メーカーの協力のもと、日本の伝統的な画材から、世界最先端画材の日本独自の表現を提案。実際に画材に触れる体験や、専門家や開発者との交流の機会を提供。

参加者数 : 43名

② 【中今茶会】

日時 : 平成30年11月10日(土)・11日(日)

会場 : 明治神宮 隔雲亭

特別協力 : 明治神宮

協力 : 小川流煎茶、無人島プロダクション

後援 : 京都造形芸術大学 東北芸術工科大学

参加費 : 茶席 一般 2,000 円/会員 500 円 (事前申込制)

観覧のみ 一般 1,000 円/会員 無料

内容 : 明治神宮内の茶室「隔雲亭」を会場とした茶会。これまでの助成顕彰事業授賞者である風間サチコ氏(美術家/第8回創造する伝統賞)、イチハラヒロコ氏(美術家/第9回日本現代芸術奨励賞)の作品を随所に配置した。

来場者数 : のべ 119 名

(2) 茶論四季おりおり

<実施概要>

① 【五山の送り火鑑賞と授賞者訪問】

日時 : 平成30年8月16日(木)

会場 : 千麗徳屋町稽古所、京都造形芸術大学瓜生山キャンパス

参加費 : 一般 1,000 円/会員 無料

来場者数 : 20名

内容 : 京都の夏の文化と芸術を堪能し、賛助会員同士の交流を深める

① 千麗徳屋町稽古所訪問

時間 : 14:00~17:00

場所 : 千麗徳屋町稽古所

内容 : 故・西川千麗氏(第10回日本伝統文化奨励賞)の稽古所を訪ね、映像や衣裳・小道具を鑑賞。また生前に交流のあった方の談話や、作品制作の協力者でもあった松浪千壽氏による上方唄の実演を鑑賞し、西川千麗氏(第10回日本伝統文化奨励賞)の精神性に触れた。

② 五山の送り火鑑賞

時 間 : 19:30~21:00

場 所 : 京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス

内 容 : 京都市内でも有数の絶景ポイントでの、五山の送り火の鑑賞。受継がれる文化への考察を深めた。

(3) ブログ 四季おりおり ~季節の音めぐり~

期 間 : 平成30年4月1日より平成30年3月1日

更 新 : 毎月1回(1日) 全12回更新

内 容 : 日本各地で伝承される楽器を、季節にあわせて紹介。

文 章 : 茂手木潔子(当財団専門委員/日本音楽研究家・聖徳大学教授)

U R L : <http://blog.canpan.info/shikioriori>

<掲載内容>※H29年度からのシリーズ

- ・ 第13回 春 蝶が舞う (4/1更新)
- ・ 第14回 竹の響き (5/1更新)
- ・ 第15回 石を鳴らす (6/1更新)
- ・ 第16回 豆腐ラッパの不思議 (7/1更新)
- ・ 第17回 鉦を打つ (8/1更新)
- ・ 第18回 風を聴く (9/1更新)
- ・ 第19回 旅する人々 (10/1更新)
- ・ 第20回 演歌の風情 (11/1更新)
- ・ 第21回 世田谷 ボロ市にて (12/1更新)
- ・ 第22回 年のはじめに (1/1更新)
- ・ 第23回 春迎え (2/1更新)
- ・ 第24回 春夏秋冬 音を楽しむ (3/1更新)

(4) その他

○ WEBでの告知、情報公開

ホームページ <http://jp-artsfdn.org/>

facebook <https://www.facebook.com/jparts.fdn>

twitter <https://twitter.com/jpartsfdn>

- ・ 主催イベント等の告知、申込受付
- ・ 「創造する伝統賞」および奨学金の募集告知、資料請求受付
- ・ 文化藝術の会入会案内、受付
- ・ これまでの助成顕彰事業授賞者、育英事業奨学生の最新の活動情報を発信

○ 賛助会員システム (WEB管理システム) の運用

○ 文化藝術の会会報発行 (4回)